

## Tのペースで

あれ、やっぱりうちの子、変わってる？そんな考えが確信に変わったのは、一歳半健診の後。一瞬現れては消えた発語、目線の合わなさ、指ささない等、できないチェック項目の多い事。発達が心配な方へと誘われた親子教室でも、浮く程の我が道を歩むT。いままでのあれやこれやが脳裏に浮かんで、そうなんだと確信しました。

その後は、発達相談に受診した病院から、すぐに医療福祉センターを紹介され、通院する事になりました。

不勉強で、こうなってはじめて療育という言葉を知りました。Tは、自閉症だという事。発達の凸凹(こぼこ)がある為に、同年齢の子より色んな面でゆっくりだという事。話を聞く程に、答え合わせの様にじっくりくると共に、自分の中で上手く飲み込めない。そんな感覚を味わいました。しかし、立ち止まっている事はできません。様々な手続き、通所できる発達支援施設探し、訓練、目まぐるしく日々は過ぎます。発達支援は、個別と、母子別の小集団に通いました。これによって、Tはこれからに必要な素地を、私は相談できる場所ができ、人心地つけました。色んな刺激に触れ、好きな物ができ、合わなかった目線が次第に合う様になり、人に対して希薄な様子も、少しずつ変わってきました。嬉しい事、楽しい事を、笑顔で伝えてくれたり、クレヨンだった指差しも、手のひらでパチンと叩いて教えてくれる様になりました。

ついついできない事に目がいきそうになってしまふ事を反省しました。Tのペースで成長しているのです。とても頑張ってくれています。

それは、いこいの家に通う様になってからもそうです。できる事が随分と増えました。中でも特に、コミュニケーション面が、伸びてくれたと思つてます。先生や、クラスのお友達との関わり合いのお陰です。いまでは、否定の時は、指や手でバツを作り、肯定の時は、頷いたり短い声で返事をしてくれる様になりました。

話しかければ、返事を返してくれる。これは、発語がないTにとつても、私にとつても、とても大きな事です。

今日は楽しかった？給食は食べれた？お友達と遊んだ？お昼寝はしたの？

そんな問いかけに、上手に返事をしてくれます。そして最近では、音声自動読み上げの玩具で、Tの言葉を伝えてくれたりもします。

難しい事もまだまだ多々ありますが、次は何ができる様になるか、一緒に何ができる様になれるか、いまはとても楽しみにしています。

Tくん(五歳)のお母さん

